

# 日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 121

令和7年(2025年)

令和7年度日本庭園学会関西大会  
開催について(予告)

発行 日本庭園学会(会長 佐々木邦博)  
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1  
東京農業大学 地域環境科学部  
造園科学科 庭園技法材料科学研究室  
TEL.(03)-5477-2428(栗野 隆 理事)  
<https://www.jgarden1992.jp/>

## 社寺境内と庭園の植栽整備

### —南禅寺・醍醐寺(下醍醐)を巡る—

令和7年度日本庭園学会全国大会では、「文化財庭園の植栽管理・育成を考える」とのテーマで、大分県内の事例について現地検討会・シンポジウムが開催されました。これに引き続き、関西大会では京都の事例について、特に庭園と寺院境内の植栽との関連について注目し、現地検討会・講演会を行う予定です。

第1日目の現地検討会では、南禅寺と醍醐寺を訪れます。本年、複数の琵琶湖疏水関連施設が新たに国宝・重要文化財に指定されることが発表され、琵琶湖疏水に再び注目が集まっています。

午前の部では、南禅寺界隈にある琵琶湖疏水を用いた別荘庭園群の一つ流響院(南禅寺界隈の別荘地開発を行った塚本与三次邸の西側部分にあたる。岩崎小弥太別邸となった。旧織宝苑)と、南禅寺発祥の地である南禅院庭園の特別見学を行います。

南禅院は方丈の屋根葺替のためしばらく拝観が停止されていましたがこの春に工事が完成し、現在庭園の護岸・中島・植栽などの修復整備が行われています。その様子もご案内する予定です。

午後の部では、護岸や植栽、築山、茶室等について、平成の大修理が行われた特別史跡・特別名勝醍醐寺三宝院庭園の見学を行います。金堂や五重塔などの寺宝とともに、近年の台風被害以降、植栽等の整備が進められつつある醍醐寺境内(下醍醐)を植栽整備担当技術者とともに巡る予定です。

第2日目は、講演会ならびに研究発表会を行います。午前中に講演会、午後から研究発表会を行います。研究発表については本紙のとおり申し込みを受け付けます。

なお、プログラムの詳細が確定しましたら、本学会ホームページ・次号の学会ニュースにてご案内いたします。

## 【1日目】令和7年11月15日(土)

現地検討会 9:30～17:00

(午前の部) 9:30～12:00

### 流響院と南禅院庭園の特別参観

集合場所：南禅寺三門(京都市左京区南禅寺)

集合時間：9:30(受付開始 9:15)

アクセス：京都市バス「南禅寺・永観堂前」下車  
徒歩約10分。もしくは京都市営  
地下鉄「蹴上駅」下車徒歩約10分

2班に分かれ、流響院と南禅院庭園約1時間ずつ見学します。

### 【講師】

吉村龍二氏(環境事業計画研究所所長)ほか

\*午後の会場への移動及び昼食は各自でお願いいたします。京都市営地下鉄「蹴上駅」から「醍醐駅」が便利です。

(午後の部) 14:00～17:00

### 醍醐寺境内、醍醐寺三宝院庭園の特別拝観

集合場所：醍醐寺 三宝院唐門前

(京都市伏見区醍醐)

集合時間：14:00(受付開始 13:45)

アクセス：京都市営地下鉄東西線「醍醐駅」  
下車徒歩約15分

### 【講師】

吉野裕仁氏(樋口造園)ほか

**【2日目】令和6年11月16日(日)**

**講演会及び研究発表会** 10:00～17:00(予定)  
 会場：京都テルサ西館3階 第2会議室  
 (京都市南区東九条下殿田町70番地  
 /新町通九条下る)

**アクセス**:近鉄「東寺駅」下車、東へ徒歩約5分。  
 市営地下鉄「九条駅」下車、西へ徒歩約5分。  
 JR「京都駅」下車、八条口より南へ徒歩15分。

**(午前の部)**

09:45～ 受付開始

10:00～11:50 講演1  
 醍醐寺三宝院庭園の歴史(仮題)  
**【講師】** 小野健吉氏  
 (大阪観光大学)

講演2  
 流響院庭園の整備と管理(仮題)  
**【講師】** 吉村龍二氏  
 (環境事業計画研究所所長)(予定)

11:50 休憩・各自昼食  
 学会理事は理事会

**(午後の部)**

13:30～16:50 研究発表会

17:00 閉会

**研究発表の募集について****◆申込み方法**

令和7年度(2025)関西大会における研究発表を募集します。会員の皆様におかれましては、奮ってご応募ください。発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200字程度)を添付のうえ、下記の「発表申込み先」までお送りください。Eメールでのお申込みをお願いします。  
 ※発表時間は15分間、質疑応答は5分間です。

発表申込期限：令和7(2025)年9月7日(日)  
 発表申込先：naka@kua.kyoto-art.ac.jp  
 担当：仲隆裕(関西支部長)

**◆研究発表要旨 執筆要領**

全発表者分を研究発表要旨集(資料集)として印刷し、当日参加者に配付します。原稿はそのまま版下としますので、下記リンクより書式見本をダウンロードし、作成をお願いします。横書き2段組、1段あたり25字40行です。分量は、A4判で2もしくは4、6、8ページとします(奇数ページでの原稿は受け付けませんのでご注意ください)。提出に際しては、WordファイルとPDFファイルの両方をご提出ください。発表時間は15分間、質疑応答は5分間です。

投稿規定、原稿掲載規定、研究発表要旨書式、執筆要領は日本庭園学会Webサイトの下記ページよりダウンロードできます。

[https://www.jgarden1992.jp/kansai\\_conference/](https://www.jgarden1992.jp/kansai_conference/)

要旨提出期限：令和7(2025)年10月31日(金)

**大会参加の申込について****◆参加方法**

現地参加もしくはリモート参加(Zoom利用)のいずれかを選択いただけます。なお、現地検討会は、現地参加のみ可能です。現地検討会への参加者数は50人を上限とし、公平を期すため、申込先着順とします(2日目のプログラムは、50人以上でも受け付けます)。

**◆申込方法**

Eメールにて事前にお申込ください。①氏名、②会員・非会員の別、③参加プログラム(現地検討会・講演会・研究発表会)、④現地参加・リモート参加の別、⑤当日に連絡可能な携帯電話番号を明記ください。

参加申込期限：令和7(2025)年10月31日(金)

参加申込先：naka@kua.kyoto-art.ac.jp

担当：仲隆裕(関西支部長)

**参加費**

参加費は当日申し受けます。

学会員 2,000円(学生は1,000円)

非会員 4,000円(学生は2,000円)

※上記金額に資料代を含みます。参加費は、1日のみの参加でも同額です。

※現地検討会参加者は拝観料として別途2,000円。  
 ※リモート参加者は事前振込をお願いします。  
 参加費振込期限:令和7(2025)年11月10日(月)

#### 振込先(郵便振替)

- ・加入者名:日本庭園学会
- ・口座番号:00140-3-659842

\* リモート参加者には11月15日(土)までに、Zoom にログイン用のID とパスワードをメールにてお知らせします。



写真上下とも醍醐寺三宝院庭園

いずれも『特別史跡及び特別名勝 醍醐寺三宝院庭園保存修理事業報告書II(植栽・築山・茶室編)』宗教法人醍醐寺,平成26年より

## 令和7年度日本庭園学会全国大会レポート

松永高明

このたび、私は初めて庭園学会の大会に参加させていただきました。

これまで私は造園の実務の方に携わってきましたが、今年から大学院に進学し、学術的な視点から日本庭園を学び直すことを決意しました。それに伴い、庭園学会にも入会いたしました。入会も参加申し込みもぎりぎりのタイミングでした。

その影響もあって、見学バスの定員に間に合わず、私はひとり別行動での移動となりました。しかし、これが思わぬご縁を生みました。偶然にも、大友氏館跡の修復に深く関わっておられた坪根さんと一緒に車で移動することになったのです。道中では、大友氏館の発掘当時の様子や修復の背景、立地にまつわる歴史的な経緯など、現場ならではの貴重なお話をたくさん伺うことができ、大変勉強になりました。この場をお借りして、坪根さんに改めて感謝申し上げます。

初日は、朝から6か所の庭園・景勝地を訪問しました。なかでも印象的だったのが、大分県玖珠町にある旧久留島氏庭園です。急な斜面地を活かし、大きな石を配した迫力ある池泉庭園でした。

私が住んでいる京都という街は、過去をさかのぼっても多くの人々が暮らし、文化や権力が集まる場所として栄えてきました。そうした環境の中で、立派な庭園が数多く残されているのは、ある意味で自然なことだと感じています。一方で、今回訪れた大分の山間部、いわば都市からは離れた地域にも、京都の名園に引けを取らない、スケール感のある力強い庭園が存在している。その事実には私は大きな感動を覚えました。

同時に、この旧久留島氏庭園のような素晴らしい庭園は、日本各地にまだまだ数多く残されているのではないかと、そんな思いも湧いてきました。いつかそうした庭園にも足を運び、その土地ごとの庭づくりの魅力を感じてみたいと、強く思われるきっかけとなりました。

大友氏館跡では、修復が完了したばかりの庭園を見ることができました。特に印象的だったのは、発掘された土壌に含まれる花粉から、

当時植えられていた樹木を推測し、それをもとに復元を試みたという点です。私自身、これまで庭園の修復に関する知見がなかったため、庭の再生において樹木の復元がいかに難しいかを初めて知りました。今回の修復では、庭の構成だけでなく、空間の質感や眺望の調整にも細やかな配慮がされており、鉄道の高架が視界に入らないように背の高い樹木が植えられるなど、ただ修復するだけでなく庭園を一つの新しい居場所として再構築しようとする姿勢に深く共感しました。

私は、修復された庭園がただの展示空間にとどまらず、人々が訪れ、親しみ、長く愛される存在であることが理想だと考えています。その意味で、この大友氏館跡庭園は、過去の景観を再現しながらも、現代の感覚にもなじむ空間としてよく設計されており、修復の意義を実感することができました。今後は建物の復元も進むとのことで、その完成の折には、ぜひまた訪れてみたいと思っています。

2日目は、午後から予定が入っていたため残念ながらすべての研究発表を聞くことはできませんでしたが、ただ、可能であればもう少し多くの発表に触れられるよう、スケジュールに余裕があるとより嬉しいと感じました。

とはいえ、今回の学会参加は、私にとって非常に意義深い体験でした。実際に現場に立ち、研究者や実務者の皆さまと交流することで、庭園に対する視野が大きく広がったように思います。まだ学び始めたばかりではありますが、これからも現場と学問の両面から、日本庭園の魅力と可能性を探求していきたいと思っています。次回の大会も、今から楽しみにしております。

柴川悠

令和7年度（2025）日本庭園学会全国大会に参加し、「文化財庭園の植栽管理・育成を考える」をテーマにした本大会は、私にとって非常に意義深い経験となりました。

初日は現地検討会に参加し、自然の雄大さや歴史的価値のある庭園・建築物を巡ることで、大分の魅力に深く触れることができました。最初に訪れた国指定名勝の旧久留島氏庭園では、地形や建物を巧みに活かした構成に感銘を受けました。続いて訪れた深耶馬溪一目八景展望台では、連なる岩峰群の壮大な景観に心を奪われ、

溪石園では美しい庭園を眺めながらの昼食を楽しみました。大正時代に架けられた馬溪橋では、精緻な石造技術と自然との調和を感じ、平田邸庭園では建築と庭園、耶馬溪の景観が一体となった空間の魅力に圧倒されました。特に3階大広間からの眺望は、開放感と景観の一体感を両立するもので印象的でした。遠くから見た古羅漢の荘厳さ、大友氏館跡庭園での植栽復元の取り組みなど、歴史を尊重しつつ現代に継承する文化財庭園の重要性を実感しました。

二日目のシンポジウムと研究発表会では、植栽を中心に庭園の保存・活用、国際交流、治癒庭園の設計原則など多岐にわたる発表が行われ、日本庭園学の幅広い可能性を感じました。私自身にとって初めての発表となりましたが、専門家の方々から貴重なご意見をいただき、自身の研究に新たな視点を加えることができました。この経験を修士論文に活かし、今後さらに研究を深めてまいります。

また、韓国庭園デザイン学会の皆様への参加により、国際的な視点から日本庭園を見直すきっかけにもなりました。今後、国際連携が一層進み、文化財庭園の保存と活用に関する研究が発展していくことを期待しています。そして、庭園の歴史的・文化的意義がより広く認識され、次世代へ継承されることを心より願っております。大会関係者の皆様、このたびは貴重な機会を誠にありがとうございました。



現地検討会で訪問した大友氏館跡庭園

## 令和7年度日本庭園学会全国大会 大会風景



韓国庭園デザイン学会長 李先生ご挨拶



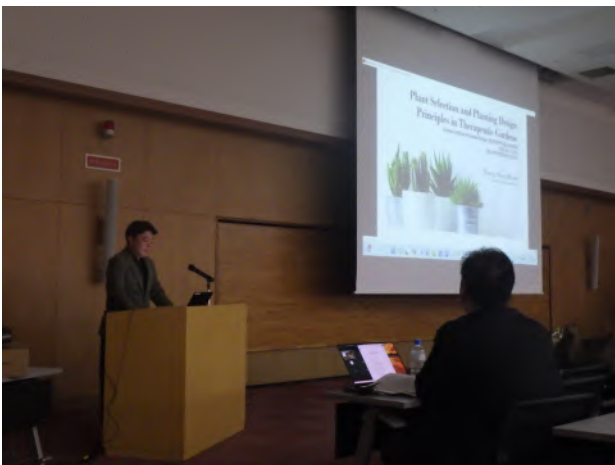
韓国庭園デザイン学会前会長 洪先生ご挨拶



公開シンポジウム ディスカッションの様子



公開シンポジウム コメントの様子



韓国庭園デザイン学会 洪先生ご発表



韓国庭園デザイン学会 玄先生ご発表

## 追悼文 龍居竹之介先生を偲んで

東京農業大学グリーンアカデミー校長  
東京農業大学名誉教授

鈴木 誠

会員で、第3回日本庭園学会賞受賞者の龍居竹之介氏が令和7年(2025)4月15日に脳梗塞のため逝去された。享年93歳。日本庭園学会賞は平成19年年度(2007)に創設されたが、第1回・第2回と授賞者無しのため、実質的には第1回目の日本庭園学会賞受賞者である。

そこで、まずは日本庭園学会賞授賞理由をあげておく。平成21年度(2009)日本庭園学会賞 授賞理由:雑誌『庭』は、新旧の庭やそれらに携わる人々を取り上げたわが国唯一の庭園専門誌である。昭和47年に第1号を刊行して以来、実に37年間、通算186号にわたっている。龍居竹之介氏はこの間一貫して『庭』の発刊に尽力してきた。古庭園をはじめとして、最新の住宅の庭から公園まで、幅広い対象を取り上げ、地域を限定して代表的な職人の仕事や歴史的な庭園などを、自然・風土・文化の話題を取り混ぜ、業界の生の現況を伝える役を果たしている。

日本庭園に関する学術的・芸術的価値に関する著書は多いが、庭園を取り巻く人々の作品や取り巻きについて取材しているのは希有であり、庭園文化の根底を支える数多くの庭園職人の作品や技の発表の場となっていることに大きな意義がある。よって学会賞としてふさわしいと判断された。

龍居竹之介氏は昭和6年(1931)東京生まれ。父は龍居松之助(1894-1961)、著名な造園史家・造園教育者で、現・東京農業大学造園科学科となる東京高等造園学校長・東京農業大学緑地学科長(教授)も務めた。そうした父の下、多くの造園界の人々と若き日から知己を得ていたが、祖父の影響を受け演劇・舞踊などが好きで、氏個人も大学はそうした方面(伝統演劇など)に進学し、卒業後は宝塚歌劇団(宝塚の演出家・白井鐵造に師事したかった)への就職を希望していたが、父・松之助の具合がよくなくなり東京を離れることができずに、日刊スポーツ社文化部記者として就職した。昭和29年(1954)早稲田大学第一文学部史学科専修卒業。同年日刊スポーツ新聞社文化部記者(昭和47年~昭和53年(1972~1978)まで嘱託)。昭和47年(1972)龍居庭園研究所長。竹之介時代の龍居庭園研究所の主要な仕事は雑誌「庭」の編集であった。雑誌「庭」の創刊

(昭和51年(1976))より第188号(平成21年(2009)7月号)までの編集を担当した。主な著書には、『新しい庭』(保育社、1965)、『日曜庭づくり:小庭園の実例とつくり方』(永岡書店、1977)、『門から玄関前の庭』(主婦と生活社、1985)、欧米で広く知られている日英版『庭 GARDEN VIEWS I~IV』(建築資料研究社、1989-1991)、『おりおりの庭園論』(建築資料研究社、1991)、『天目山栖雲寺庭園小考』(植松又次先生頌寿記念論文集刊行会・名著出版、1994)、『兼六園~その歴史と文化』(共著・橋本確文堂、1997)、『日本舞踊図鑑』(郡司正勝と共編、国書刊行会、1999)、『日本の庭こぼれ話』(三月書房、2020)。

修復・整備に関わった代表的な古庭園は、西本願寺滴翠園(京都府京都市)、根来寺庭園(和歌山県岩出市)、依水園(奈良県奈良市)、西福寺書院庭園(福井県)、盛美園(青森県弘前市)、永福寺跡・建長寺回春院・瑞泉寺(神奈川県鎌倉市)、貞観園(新潟県新潟市)、芝公園もみじ谷(東京都港区)。なお、公益財団法人 貞観園保存会理事は亡くなるまで務めた。

設計作品として、岡崎中央総合公園恩賜苑(愛知県岡崎市)、兼六園新時雨亭露地(石川県金沢市)、中央工学校南ヶ丘倶楽部茶苑(長野県軽井沢町)、掛川城二の丸茶室庭園(静岡県掛川市)、江戸東京たても園内高橋是清邸庭園(東京都小金井市)等。

龍居竹之介氏が生前、最後まで力を注いでいたのは、清澄庭園を東京都名勝ではなく、国の名勝庭園にすべきだということだった。(一社)日本庭園協会(氏は第12代会長・名誉会長)ではその意志を受けて、連続講座(一般社団法人日本庭園協会創立100周年記念事業「清澄庭園再評価プロジェクト」における「都指定名勝清澄庭園連続講座」全6回2017年7月2日~2018年4月10日)を実施し、関係諸機関へ働きかけをした。また2024年3月『清澄庭園の魅力を探る~近代庭園の原点』(一社)日本庭園協会(非売品174p.)を刊行している。

最後に、氏の最新刊『日本の庭こぼれ話』(三月書房、2020)に掲載された著者紹介文を掲載しておく。「1931東京生れ。早稲田大学卒。日刊スポーツ新聞社文化部記者を経て1972年来、龍居庭園研究所主宰。早稲田大学、東京農業大学等の非常勤講師、創造学園大学客員教授に就く一方、文化庁文化財保護審議会専門委員、文化庁芸術審査委員他を歴任。現在は(一社)日本庭園協会名誉会長、日本生活文化史学会会長、(公社)日本舞踊協会顧問。受賞は文化庁長官表彰、(公社)日本造園学会上原敬二賞、日本庭園学会賞他。」

多磨霊園の龍居家墓地(9区1種4側4番)に眠る。

参考文献:進士五十八・大平暁・相田明(2005)、上原敬二賞受賞者に聞く一 龍居竹之介先生一、ランドスケープ研究69(1)、p.1-4

## 日本庭園学会 オンラインセミナー 2025 秋

### 庭と園に学ぶ ～日本の庭に関する本と著者～

日本庭園学会では、春秋2回の研究大会に合わせて、その前に日本庭園学会オンラインセミナーを開催テーマに関連した主旨にて実施しています。今秋の企画は、趣向を変え話題の著作物をメインにすえています。近年に刊行された日本の庭に関する本の著者を迎えてのセミナーです。著作に至る話や著作では語られない話、著作で強調したいこと等々、この機会にお話しいただきます。

具体的には、日本庭園の現況を3Dとして記録されたデジタル・アーカイブの可能性の話題や、庭園めぐりとともに持ち歩きたい一冊について、または京都でも多くの訪問者を迎え、様々な時代の様式をもつ二条城庭園の変遷に関してお話いただきます。そしてまた、11月9日(日)に当学会主催で実施する見学会の事前学習として、旧渋沢邸の庭を紹介いただきます。続いて今秋の関西大会において現地視察を予定している、岡崎の庭園群を成り立たせた琵琶湖疎水とこの地域との関係へと話題を展開し、最終回は『庭園と観光』に関するお話から、庭園と植栽をテーマとする関西大会へと繋げ結びます。今回の企画も、ぜひ、みなさん、初回から全ての回の聴講をお待ちしています。

### 開催期間・参加方法

9月29日(月)～11月10日(月)の毎月曜日の18:00～19:30に開催します。但し、第5回のみ11月4日(火)開催です。

参加費は無料、定員は300名(非会員も参加可能)です。参加にあたっては事前登録が必要です。1度登録し、Zoomリンクを入手すると全てのセミナーが視聴可能となります。

登録は、申込フォーム  
(<https://x.gd/II6xK>) もしくは  
右記QRコードから登録して  
ください。学会員に限り見逃し  
配信の利用が可能です。



### 講演内容 (全6回)

- 9月29日(月)  
原 瑠璃彦氏 (静岡大学)  
「日本庭園をめぐる  
ーデジタル・アーカイブの可能性ー」
- 10月6日(月)  
大野 暁彦氏 (名古屋市立大学大学院)  
「日本の美しい庭を1冊で巡る旅」
- 10月20日(月)  
内田 仁氏 (京都市埋蔵文化財研究所)  
「二条城庭園の変遷と記録  
～元庭園管理者の研究総覧」
- 10月27日(月)  
正田 実知彦氏 (福岡県)  
「旧渋沢栄一邸の庭園  
～飛鳥山・旧渋沢邸見学会に向けて」
- 11月4日(火)  
恵谷 浩子氏 (奈良文化財研究所)  
「地域のみかた  
ー京都の身近な風景からひもとく地域らしさ」
- 11月10日(月)  
小野 健吉氏 (大阪観光大学)  
「庭園と観光」

## 日本庭園学会見学会

### 飛鳥山公園および旧渋沢邸跡

(国指定重要文化財「晩香廬」「青淵文庫」)

日本庭園学会 2025 年度見学会では、飛鳥山公園と渋沢栄一ゆかり重要文化財を見学します。

八代将軍吉宗の肝煎りで設置された事に端を発する飛鳥山公園は、明治6年の太政官布達によって日本で最初に開園した公園の一つです。桜の名所として、毎年、春には大勢の観光客で賑わう事でも有名です。

公園内には現在、“飛鳥山3つの博物館”が設置されています。その一つが昨年度に、日本銀行の新札の肖像として採用された渋沢栄一の旧宅跡で、栄一の事績を紹介する史料館もあります。

栄一が来客を接待するために設けた晩香廬、蔵書などを保管する青淵文庫は重要文化財に指定され、整備工事が完了し一般公開されています。



飛鳥山公園

#### 【日時】

2025年11月9日(日)13:00～15:00

#### 【見学地】

飛鳥山公園および旧渋沢邸跡(国指定重要文化財「晩香廬」「青淵文庫」)

(アクセス) JR京浜東北線「王子駅」中央口・南口下車、徒歩1分

#### 【公園内の文化施設】

- \* 通称：飛鳥山3つの博物館
- ・ 北区飛鳥山博物館(北区王子1-1-3)
- ・ 紙の博物館(北区王子1-1-3)
- ・ 渋沢史料館(北区西ヶ原2-16-1)

#### 【近隣の文化施設】

- ・ お札と切手の博物館(北区王子1-6-1)  
※「王子駅」中央口下車、徒歩1分
- ・ 音無親水公園(北区王子本町1) ※「王子駅」中央口下車、徒歩1分
- ・ 名主の滝公園(北区岸町1-15-25) ※「王子駅」中央口下車、徒歩5分

\*お申込みに関しては、開催日が近くなりましたら改めてお知らせします。



晩香廬

#### 【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願ひします。

協力者：森本・細井(植彌加藤造園株式会社)

#### 日本庭園学会 広報委員会

加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

京都芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局